

町田市学びの多様化プロジェクトに係る  
児童生徒状況調査報告書

2025年2月  
町田市



# 目次

<b>I. 調査概要</b> .....	<b>2</b>
1. 調査目的.....	2
2. 調査概要.....	2
3. 調査結果を見る上での注意事項.....	3
<b>II. 児童・生徒調査の結果</b> .....	<b>6</b>
1. 現在の生活状況.....	6
2. 相談状況.....	11
3. 「学びの多様化学校」について.....	15
4. その他.....	17
<b>III. 保護者調査の結果</b> .....	<b>20</b>
1. 現在の生活状況.....	20
2. 相談状況、支援・サービス利用状況.....	25
3. 「学びの多様化学校」について.....	29
4. その他.....	34
<b>IV. ヒアリング調査の結果</b> .....	<b>40</b>
1. 市の不登校施策の利用理由.....	40
2. 学びの多様化学校について、通わせたい/通わせたくないと思う理由.....	41
3. サポートとしてあれば良いと思うこと.....	43
4. 町田市に伝えたいこと.....	45
5. ヒアリングに協力しようと思った理由.....	46
6. その他の意見.....	46
<b>V. 調査結果のまとめ</b> .....	<b>48</b>
1. 平日の昼間の過ごし方等について.....	48
2. 支援・サービスについて.....	49
3. 相談の実態について.....	49
4. 「学びの多様化学校」について.....	50
5. 考察.....	51
<b>VI. 参考資料</b> .....	<b>54</b>
1. 児童・生徒調査：調査項目一覧.....	54
2. 保護者調査：調査項目一覧.....	55



# I 調査概要

## I. 調査概要

### 1. 調査目的

町田市では、学校を休んでいる子どもの学びの場を確保し、必要な相談や情報につながる仕組みを整えるよう、取り組む事項を示した「学びの多様化プロジェクト 2024-2028」を策定しました。

町田市の児童生徒の生活状況と「学びの多様化プロジェクト 2024-2028」の推進のために必要なこと等を把握するため、教育センター事業を利用されている方、フリースクールに通われている方を対象にアンケート調査を実施しました。また、教育センター事業を利用されている方を対象にヒアリング調査を実施しました。

### 2. 調査概要

	アンケート調査				③ヒアリング調査	
	①教育センター利用者調査		②フリースクール在籍者調査			
調査対象	2024 年度に教育センターを利用したことがある児童・生徒（小学校4年生～中学校3年生）及び保護者		2024 年 9 月にフリースクールに在籍している児童・生徒（小学校4年生～中学校3年生）及び保護者		①のアンケート調査でヒアリング調査に協力が得られた人のうち、日程調整ができた人（児童・生徒及び保護者）	
抽出方法	アンケート調査票を手渡しできる調査対象者		フリースクールを通して、市内在住の児童・生徒に配付		①のアンケート調査でヒアリング調査に協力が得られた人のうち、日程調整ができた人	
調査方法	郵送またはWEBによる回収		郵送またはWEBによる回収		スクールカウンセラーによる対面でのヒアリング	
調査期間	2024 年 6 月 3 日（月）～ 7 月 1 日（月）		2024 年 8 月 27 日（火）～ 9 月 30 日（月）		2024 年 7 月 22 日（月）～ 8 月 21 日（水）	
配布数					協力できると回答：39 件 保護者のみ：26 件 子ども・保護者：13 件	
	児童・生徒	保護者	児童・生徒	保護者	保護者のみ	児童・生徒・保護者
有効回収数	47 件	72 件	13 件	18 件	15 件	3 件
回収率（参加率）	—	—	—	—	57.7%	23.1%

### 3. 調査結果を見る上での注意事項

---

- ・ グラフ、表中の「n」はアンケートの有効回収数を示しています。
- ・ 比率はすべて百分率（%）で表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出しています。従って、合計が 100.0%にならない場合もあります。
- ・ 複数回答の場合、回答の合計比率が 100.0%を超える場合があります。
- ・ 教育センター利用者調査を「利用者調査」、フリースクール在籍者調査を「フリースクール調査」と略称を用いているほか、選択肢を簡略化している場合があります。
- ・ **自由記述の回答は、表現方法などを統一するために原文を一部修正して記載しています。**





## Ⅱ 児童・生徒調査の結果

## II. 児童・生徒調査の結果

### 1. 現在の生活状況

#### ① 学年

【みなさんにかがいます】

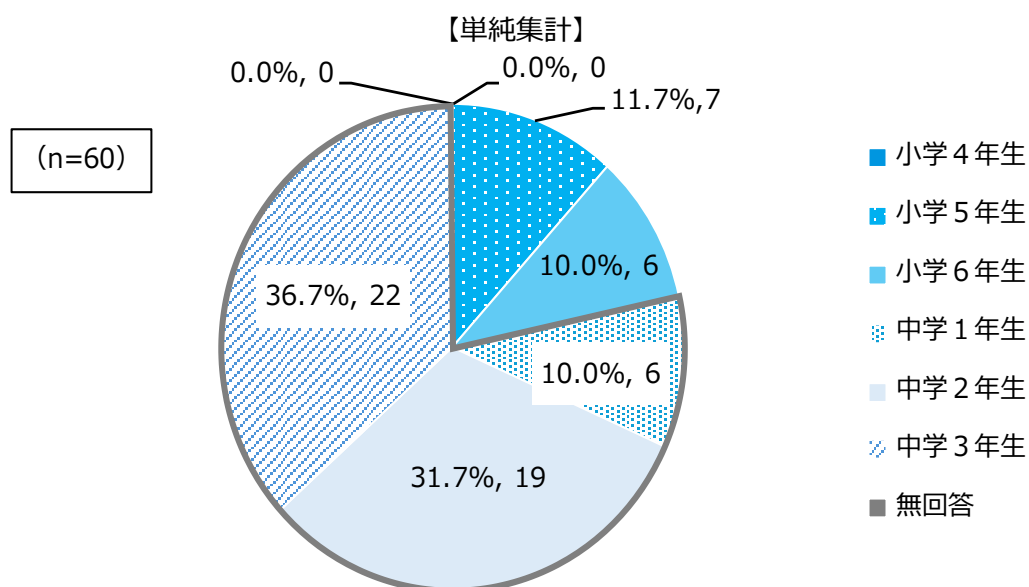
問1 あなたは何年生ですか。

(○はひとつだけ)

学年は、「小学5年生」が11.7%で7人、「小学6年生」「中学1年生」がそれぞれ10.0%で6人、「中学2年生」が31.7%で19人、「中学3年生」が36.7%で22人でした。

「小学4年生」の回答はありませんでした。

また、『小学生(4~6年生)』でみると21.7%で13人、『中学生(1~3年生)』でみると78.4%で47人でした。

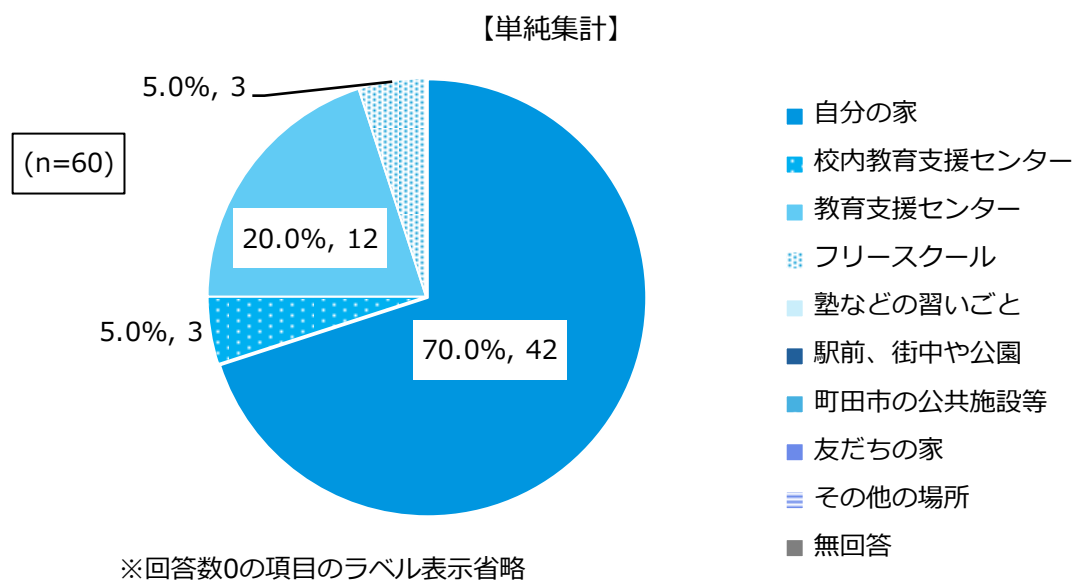


## ② 平日の昼間、学校以外で主に過ごすところ

問 2 平日の昼間、あなたが学校以外で主に過ごしているところはどこですか。

(○はひとつだけ)

平日の昼間、学校以外で主に過ごすところは「自分の家」が 70.0%で 42 人、「校内教育支援センター」が 5.0%で 3 人、「教育支援センター」が 20.0%で 12 人、「フリースクール」が 5.0%で 3 人でした。



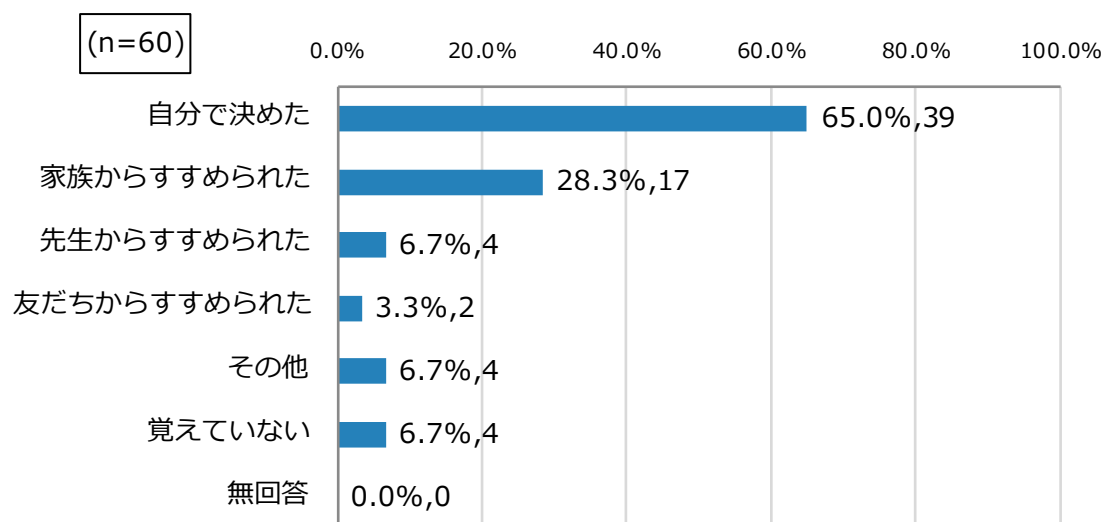
### ③ 平日の昼間、学校以外で主に過ごすところを薦めた人

問3 あなたがそこで過ごすことについて、だれかにすすめられましたか。

(あてはまるもの全てに○)

平日の昼間、学校以外で主に過ごすところを薦めた人について、「自分で決めた」(65.0%で 39人)が最も多く、次いで「家族からすすめられた」(28.3%で 17人)となっています。

【単純集計】

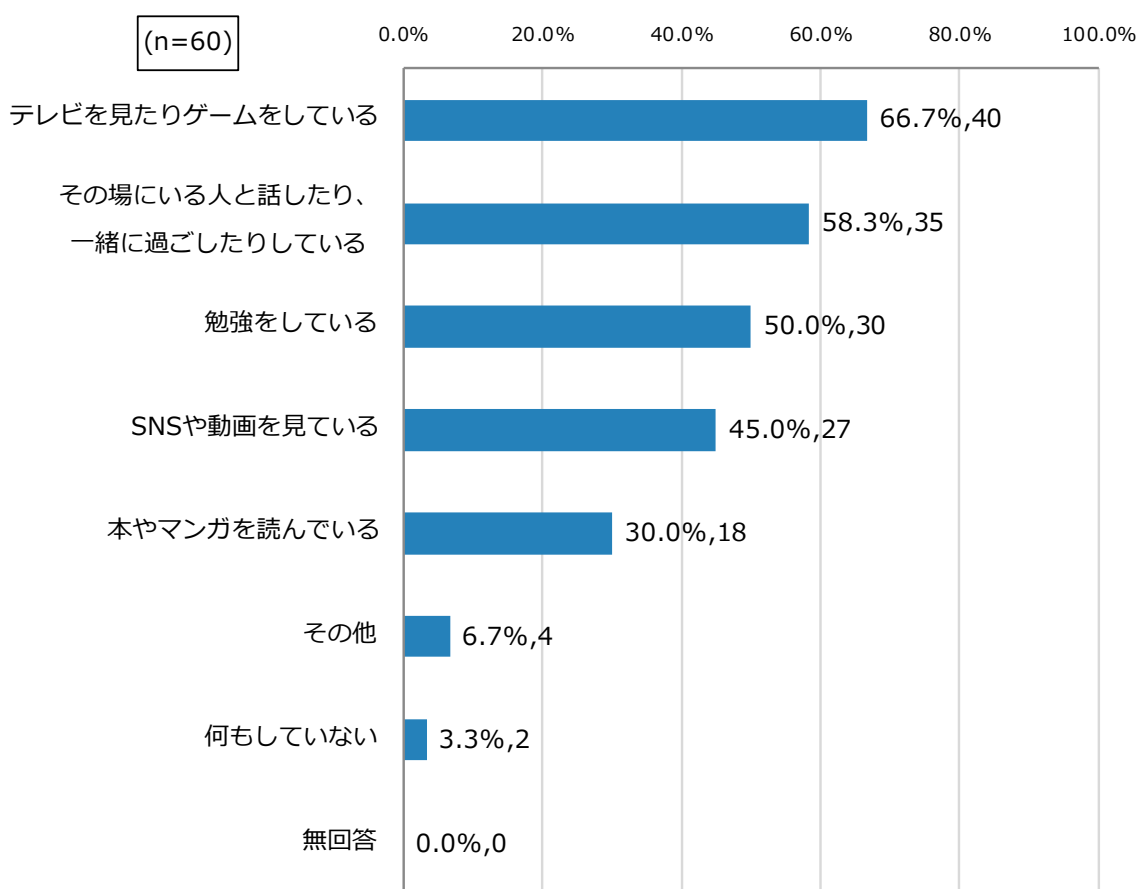


#### ④ 平日の昼間、学校以外で主に過ごすところで行っていること

問 4 あなたは、そこでどのようなことをしていますか。 (あてはまるもの全てに○)

平日の昼間、学校以外で主に過ごすところで行っていることについて、「テレビを見たりゲームをしている」(66.7%で 40 人) が最も多く、次いで「その場にいる人と話したり、一緒に過ごしたりしている」(58.3%で 35 人) となっています。

【単純集計】



学校以外で主に過ごしているところで、何をしているかを確認すると、自分の家では「テレビを見たりゲームをしている」、校内教育支援センターでは「その場にいる人と話したり、一緒に過ごしたりしている」、教育支援センター、フリースクールでは「勉強をしている」が最も高くなっています。

【クロス集計（表側：問2 学校以外で主に過ごしているところ×  
表頭：問4 そこでどのようなことをしているか）】

		テレビを見たりゲームをしている	その場にいる人と話したり、一緒に過ごしたりしている	勉強をしている	SNSや動画を見ている	本やマンガを読んでいる	その他	何もしていない
全体	60	66.7%	58.3%	50.0%	45.0%	30.0%	6.7%	3.3%
自分の家	42	90.5%	50.0%	31.0%	61.9%	42.9%	9.5%	4.8%
校内教育支援センター	3	-	100.0%	66.7%	-	-	-	-
教育支援センター	12	16.7%	75.0%	100.0%	8.3%	-	-	-
フリースクール	3	-	66.7%	100.0%	-	-	-	-
塾などの習いごと	-	-	-	-	-	-	-	-
駅前、街中や公園	-	-	-	-	-	-	-	-
町田市の公共施設等	-	-	-	-	-	-	-	-
友達の家	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の場所	-	-	-	-	-	-	-	-

## 2. 相談状況

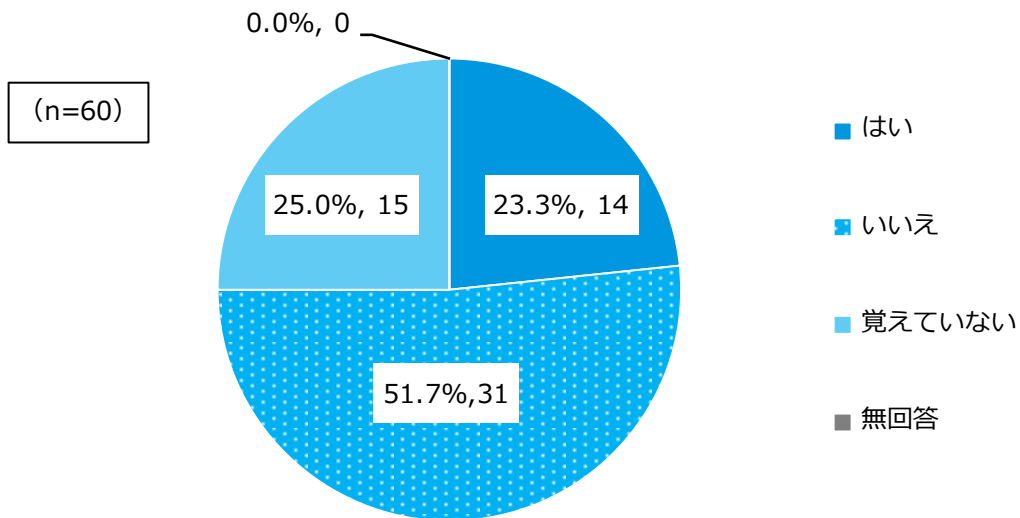
### ① 学校以外の場所で過ごし始めたときの相談の有無

問 5 あなたが、学校以外の場所で過ごし始めたとき、誰かに相談しましたか。

(○はひとつだけ)

学校以外の場所で過ごし始めたとき、誰かに相談したかどうかについて、「はい」が 23.3%で 14 人、「いいえ」が 51.7%で 31 人、「覚えていない」が 25.0%で 15 人となっています。

【単純集計】



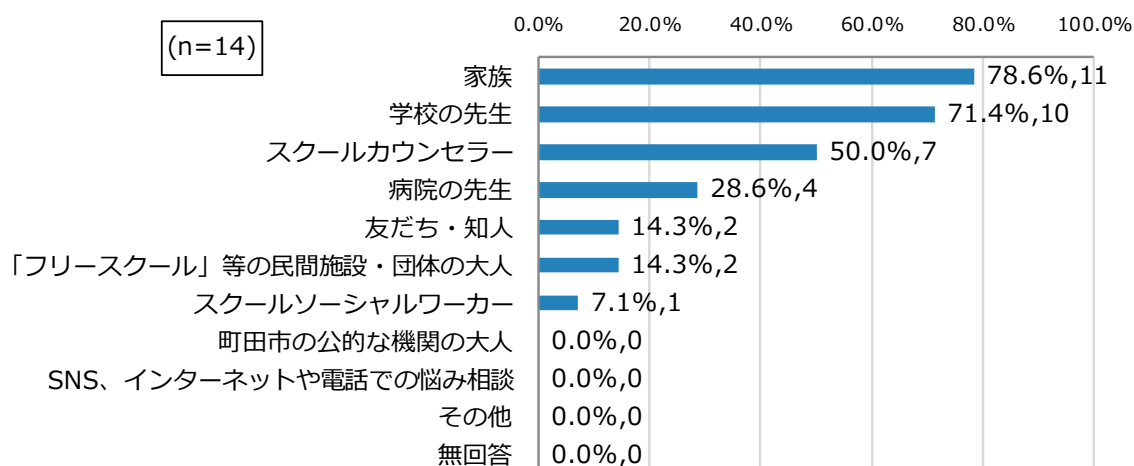
## ② 悩みや困りごとの相談相手

【問5で「1. はいを選んだ場合】

問6 あなたは、悩みや困りごとをだれに相談しましたか。 (あてはまるもの全てに○)

悩みや困りごとの相談相手について、「家族」(78.6%で11人)が最も多く、次いで「学校の先生」(71.4%で10人)、「スクールカウンセラー」(50.0%で7人)となっています。

【単純集計】





### ③ 相談したいことの内容

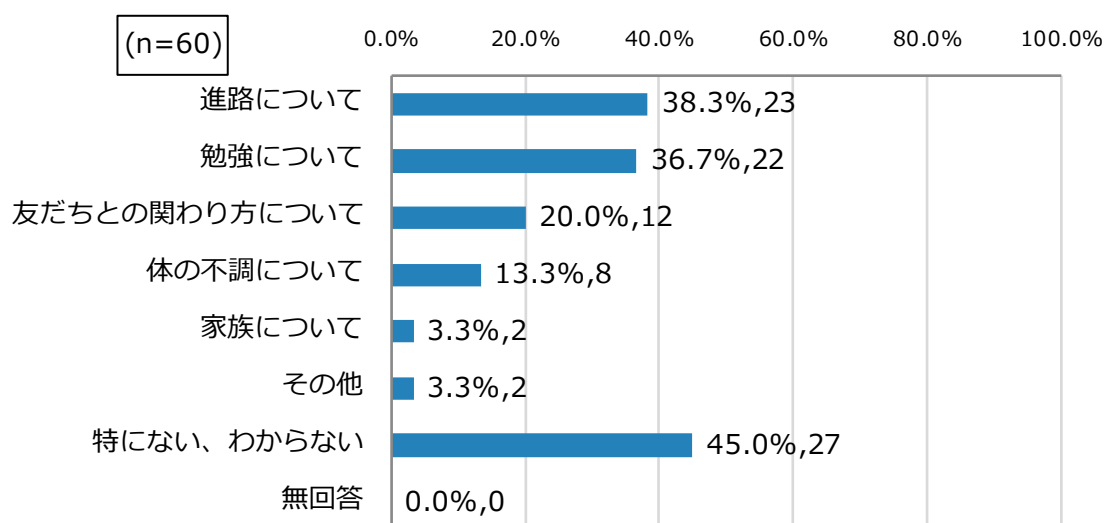
【みなさんにかがいます】

問7 あなたは今、相談したいことはありますか。

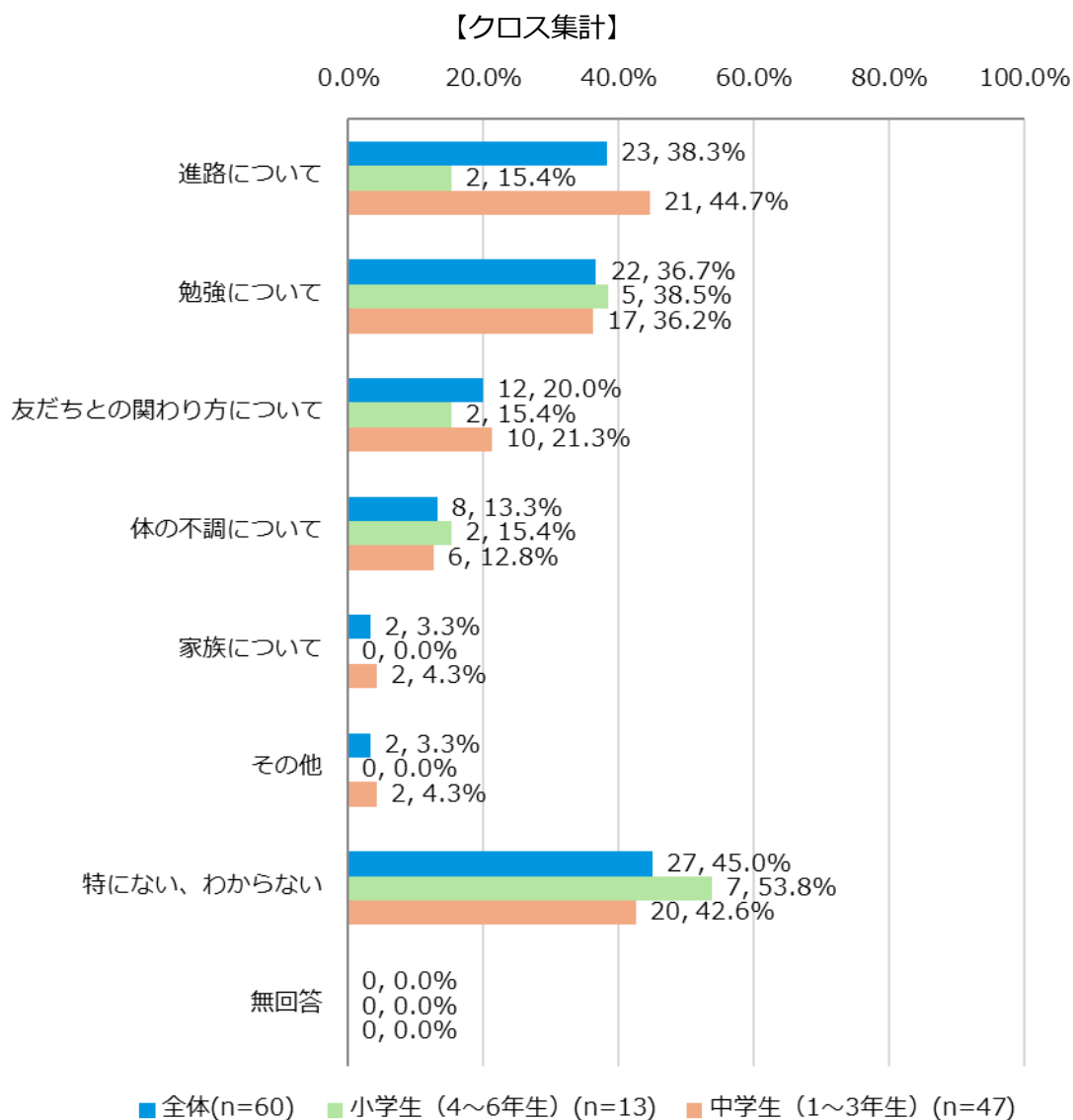
(あてはまるもの全てに○)

現在、相談したいことの内容として、「特にない、わからない」を除くと、「進路について」(38.3%で23人)が最も多く、次いで「勉強について」(36.7%で22人)、「友だちとの関わり方について」(20.0%で12人)となっています。

【単純集計】



学年別（問 1）で見ると、「中学生（1～3年生）」は「小学生（4～6年生）」よりも「進路について」の割合が高くなっています。



### 3. 「学びの多様化学校」について

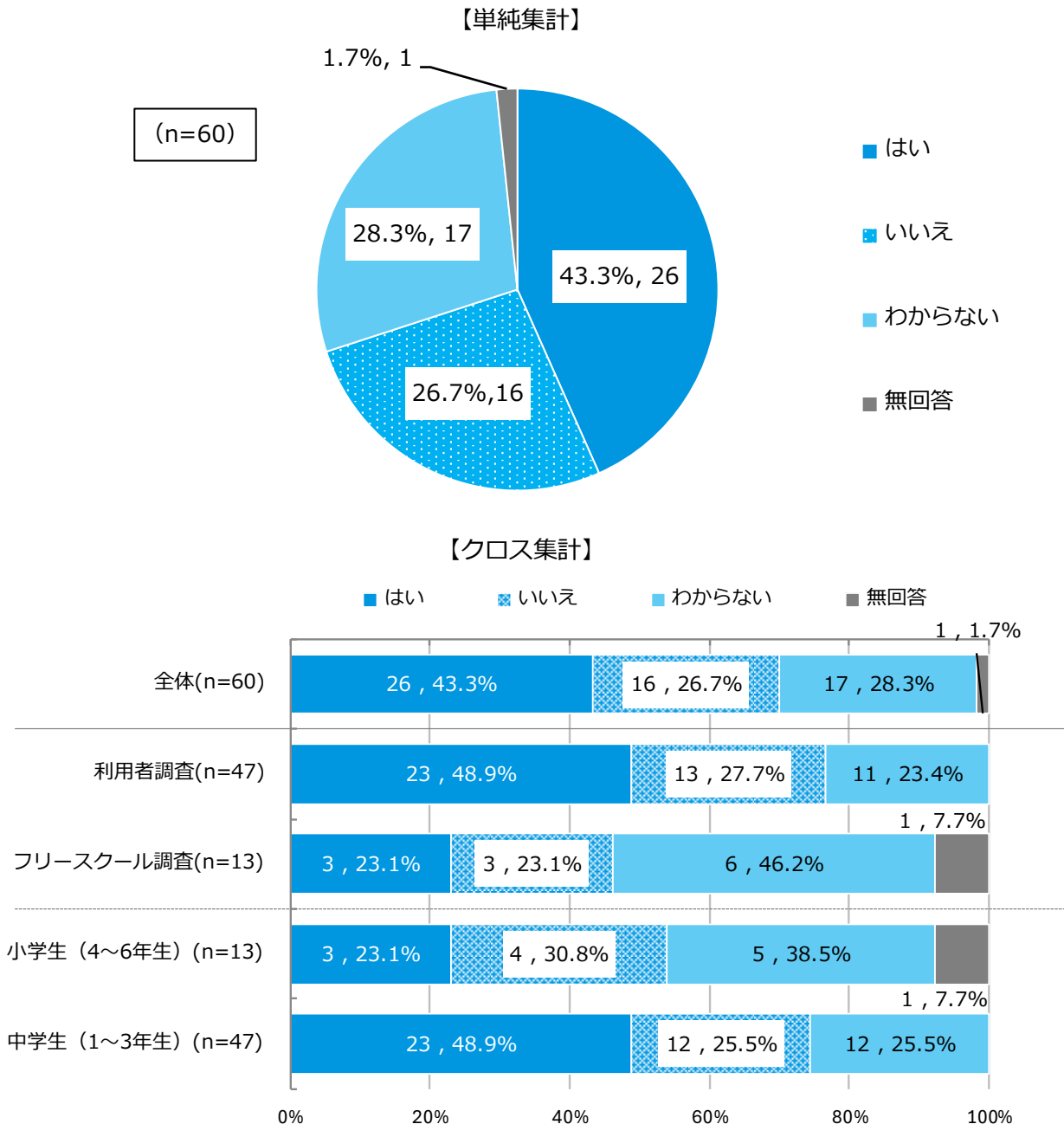
#### ① 「学びの多様化学校」への通学希望有無

問 8 町田市では、今後、不登校の子どもたちのための学校（学びの多様化学校）を作る計画があります。あなたは、そのような学校があれば通いたいと思いますか。（○はひとつだけ）

「学びの多様化学校」への通学希望について、「はい」が 43.3%で 26 人、「いいえ」が 26.7%で 16 人、「わからない」が 28.3%で 17 人となっています。

調査別で見ると、「利用者調査」では「はい」が 48.9%で 23 人、「フリースクール調査」では「はい」が 23.1%で 3 人となっています。

学年別（問 1）で見ると、「小学生（4～6 年生）」では「はい」が 23.1%で 3 人、「中学生（1～3 年生）」では「はい」が 48.9%で 23 人となっています。

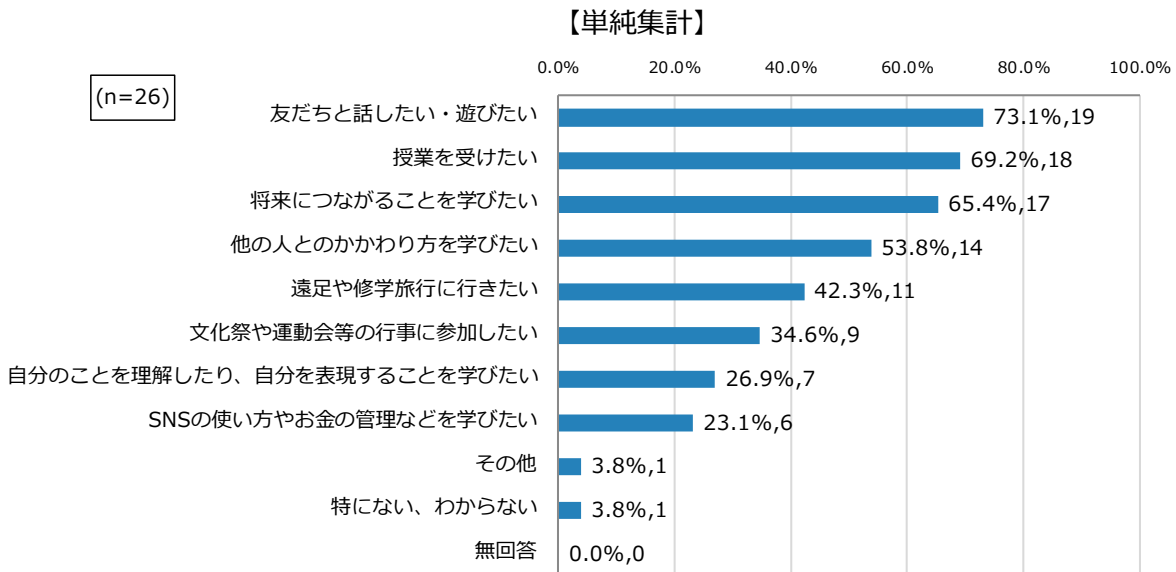


## ② 「学びの多様化学校」でしたいこと

【問8で「1. はいを選んだ場合】

問9 学びの多様化学校でどのようなことがしたいですか。 (あてはまるもの全てに○)

「学びの多様化学校」でしたいことについて、「友だちと話したい・遊びたい」(73.1%で19人)が最も多く、次いで「授業を受けたい」(69.2%で18人)、「将来につながることを学びたい」(65.4%で17人)となっています。



## 4. その他

### ① してみたいこと

【みなさんにかがいます】

問 10 どのようなことでも良いので、あなたがこれからしてみたいと思うことを教えてください。  
(自由記述)

自由意見	40 件
勉強・学校について	10 件
将来の夢（仕事も含む）について	8 件
友だちとの交流について	6 件
ものづくりや芸術について	4 件
遊びについて	3 件
習い事や趣味について	3 件
健康について	1 件
その他	7 件
特になし	7 件

※ 1つの意見が複数のカテゴリーに該当することがあり、各カテゴリーの意見の合計と自由意見の件数が一致しない場合があります。

【一部回答を抜粋】

- 勉強・学校について
  - ・みんなより勉強が遅れているので勉強をしたい。
  - ・スポーツテストをしてみたい。
  - ・全日制高校に行きたい。1人修学旅行。
- 将来の夢（仕事も含む）について
  - ・ネイリストになりたい。
  - ・パティシエになりたい。
  - ・バーテンダーをしてみたい。
- 友だちとの交流について
  - ・友だちと遊ぶことが減ったから久しぶりにみんなで遊びたい。
  - ・友だちを作ってみたい。
  - ・みんなとお泊り会をしたい。



### Ⅲ 保護者調査の結果

### Ⅲ. 保護者調査の結果

#### 1. 現在の生活状況

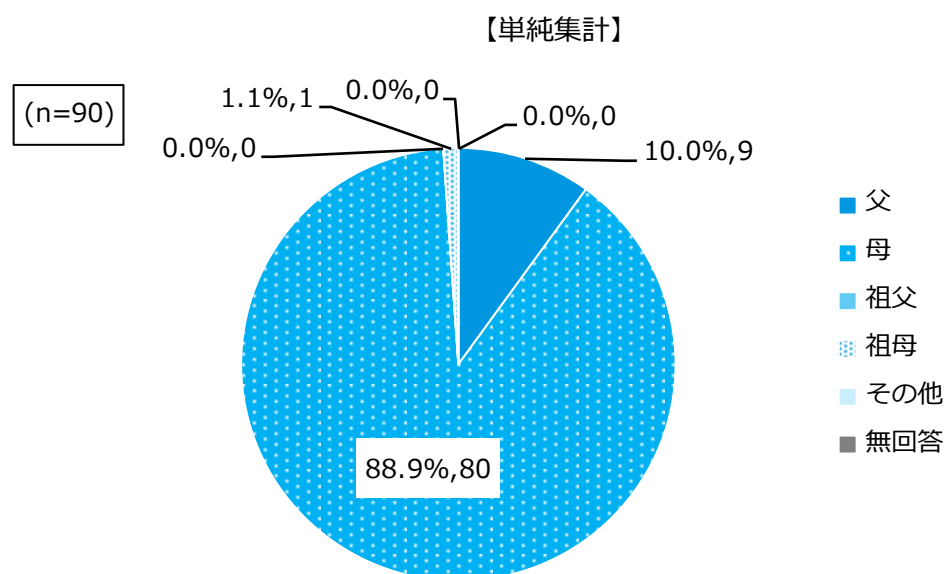
##### ① 子どもとの関係

【全ての方にお伺いいたします】

問1 このアンケートを回答いただく方について、お子さんとの関係を教えてください。

(○は1つだけ)

アンケート回答者と子どもの関係について、「父」が10.0%で9人、「母」が88.9%で80人、「祖母」が1.1%で1人となっています。





## ② 子どもの学年

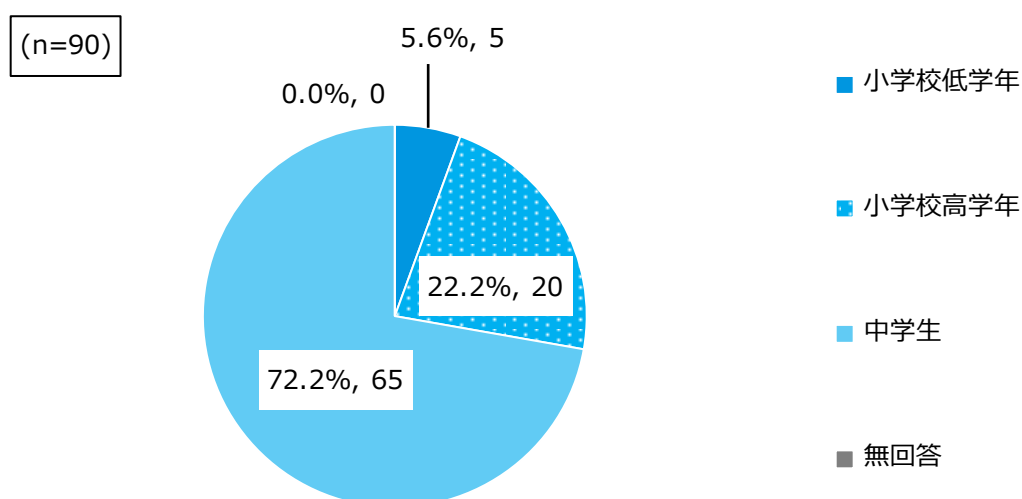
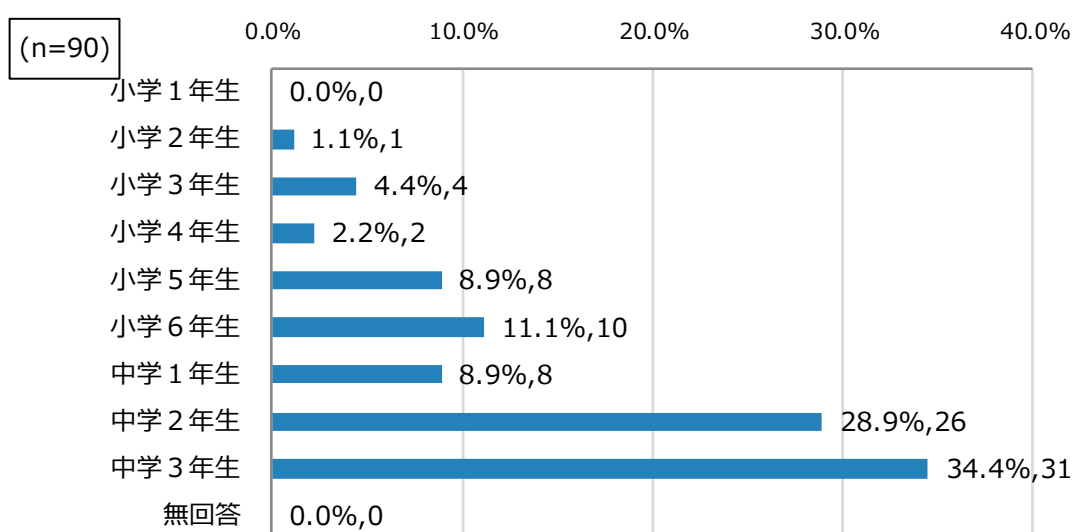
問 2 対象となるお子さんの学年をお答えください。

(○は1つだけ)

子どもの学年について、「小学2年生」が1.1%で1人、「小学3年生」が4.4%で4人、「小学4年生」が2.2%で2人、「小学5年生」が8.9%で8人、「小学6年生」が11.1%で10人、「中学1年生」が8.9%で8人、「中学2年生」が28.9%で26人、「中学3年生」が34.4%で31人となっています。

また、『小学校低学年』では5.6%で5人、『小学校高学年』では22.2%で20人、『中学生』では72.2%で65人となっています。

【単純集計】

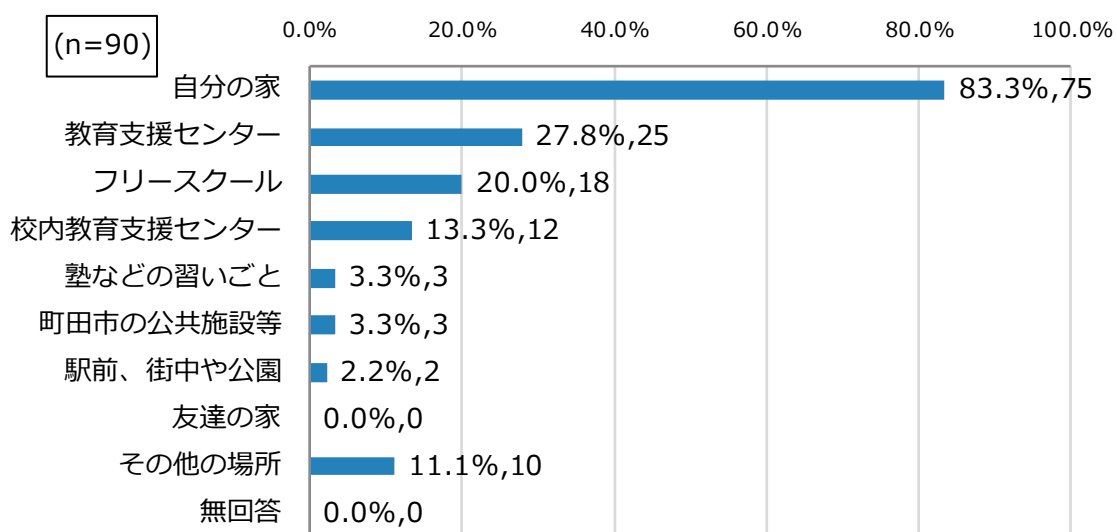


### ③ 子どもが日中過ごす場所

問3 お子さんが平日の昼間、よく過ごしているところはどこですか。上位3つまで回答してください。(上位3つに〇)

子どもが日中過ごす場所について、「自分の家」(83.3%で75人)が最も多く、次いで「教育支援センター」(27.8%で25人)、「フリースクール」(20.0%で18人)となっています。

【単純集計】



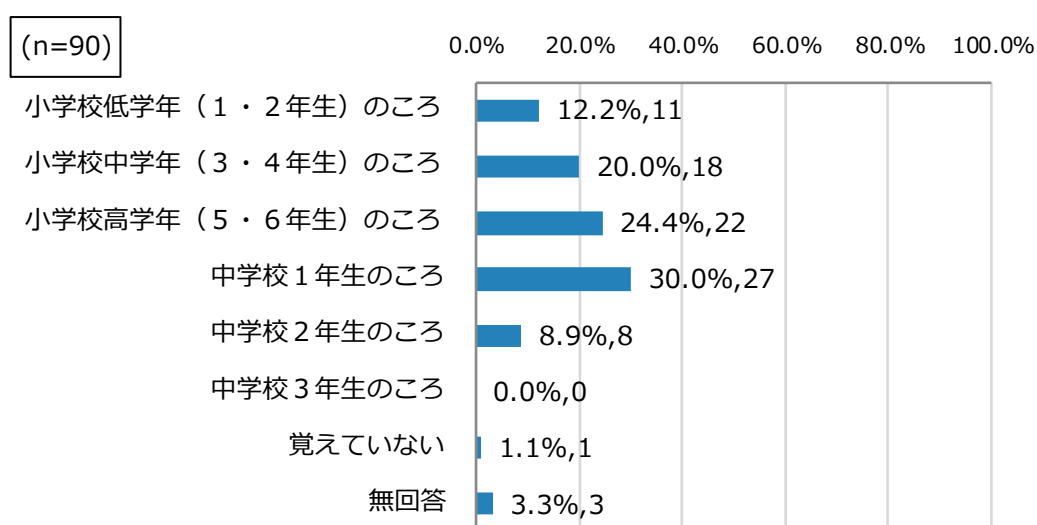
#### ④ 子どもが学校以外で過ごし始めた時期

問 4 お子さんが、日中学校以外で過ごすようになった最初の時期を教えてください。

(○は1つだけ)

子どもが学校以外で過ごし始めた時期について、「小学校低学年（1・2年生）のころ」が12.2%で11人、「小学校中学年（3・4年生）のころ」が20.0%で18人、「小学校高学年（5・6年生）のころ」が24.4%で22人、「中学校1年生のころ」が30.0%で27人、「中学校2年生のころ」が8.9%で8人、「覚えていない」が1.1%で1人となっています。

【単純集計】



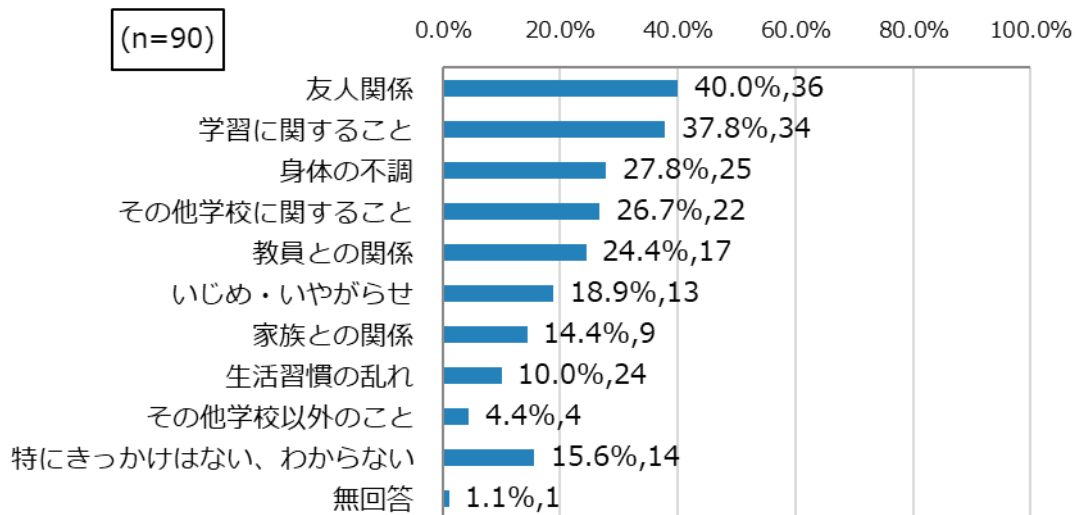
⑤ 日中学校以外で過ごすようになったきっかけ

問 5 お子さんが、日中学校以外で過ごすようになったきっかけについて、考えられるもの全てをお答えください。  
(あてはまるもの全てに○)

日中学校以外で過ごすようになったきっかけについて、「友人関係」(40.0%で36人)が最も多く、次いで「学習に関すること」(37.8%で34人)、「身体の不調」(27.8%で25人)となっています。

きっかけごとに複合的な要因(各回答と一緒に選ばれた回答)を確認すると、「友人関係」、「教員との関係」、「家族との関係」等の人間関係では、相互に高くなっています。また、「学習に関すること」は全体的にきっかけとなった割合が高い傾向にあります。

【単純集計】



【きっかけに関する複合的な要因の状況】

	全体	友人関係	学習に関すること	身体の不調	その他学校に関すること	教員との関係	いじめ・いやがらせ	家族との関係	生活習慣の乱れ	その他学校以外のこと	特にきっかけはない、わからない
全体	90	40.0%	37.8%	27.8%	26.7%	24.4%	18.9%	14.4%	10.0%	4.4%	15.6%
友人関係	36	100.0%	44.4%	22.2%	22.2%	41.7%	30.6%	19.4%	16.7%	2.8%	8.3%
学習に関すること	34	47.1%	100.0%	26.5%	35.3%	23.5%	23.5%	8.8%	14.7%	2.9%	8.8%
身体の不調	25	32.0%	36.0%	100.0%	16.0%	20.0%	20.0%	16.0%	12.0%	-	-
その他学校に関すること	24	33.3%	50.0%	16.7%	100.0%	12.5%	16.7%	12.5%	4.2%	-	-
教員との関係	22	68.2%	36.4%	22.7%	13.6%	100.0%	36.4%	31.8%	18.2%	4.5%	4.5%
いじめ・いやがらせ	17	64.7%	47.1%	29.4%	23.5%	47.1%	100.0%	41.2%	11.8%	5.9%	11.8%
家族との関係	13	53.8%	23.1%	30.8%	23.1%	53.8%	53.8%	100.0%	30.8%	7.7%	7.7%
生活習慣の乱れ	9	66.7%	55.6%	33.3%	11.1%	44.4%	22.2%	44.4%	100.0%	-	11.1%
その他学校以外のこと	4	25.0%	25.0%	-	-	25.0%	25.0%	25.0%	-	100.0%	25.0%
特にきっかけはない、わからない	14	21.4%	21.4%	-	-	7.1%	14.3%	7.1%	7.1%	7.1%	100.0%

## 2. 相談状況、支援・サービス利用状況

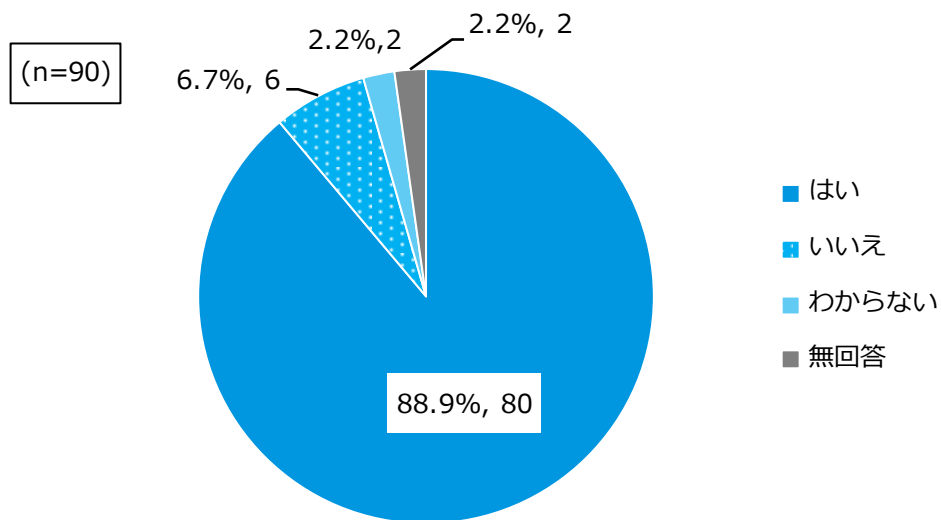
### ① 子どもが学校以外の場所で過ごし始めたときに相談したか

問 6 お子さんが学校以外の場所で過ごし始めたとき、誰かに相談しましたか。

(○は1つだけ)

子どもが学校以外の場所で過ごし始めたときに、誰かに相談をしたかについて、「はい」が88.9%で80人、「いいえ」が6.7%で6人、「わからない」が2.2%で2人となっています。

【単純集計】

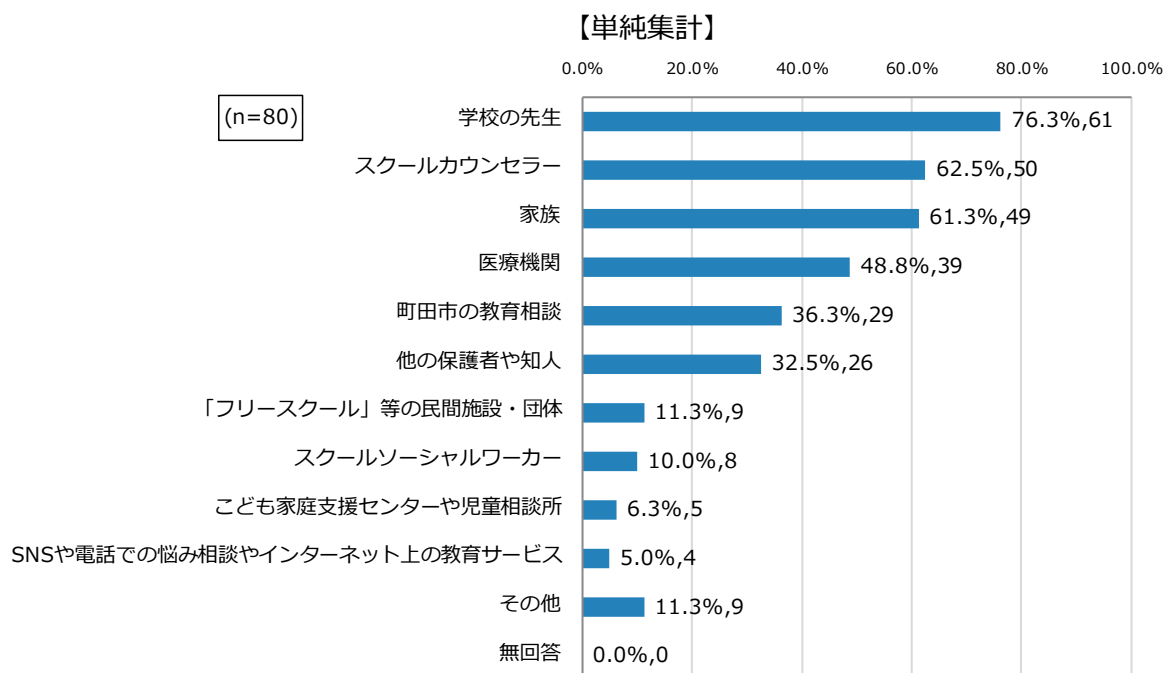


## ② 相談した相手

【問6で「1. はい」を選んだ場合】

問7 相談した方について、あてはまるもの全てをお答えください。(あてはまるもの全てに○)

相談した相手について、「学校の先生」(76.3%で61人)が最も多く、次いで「スクールカウンセラー」(62.5%で50人)、「家族」(61.3%で49人)となっています。

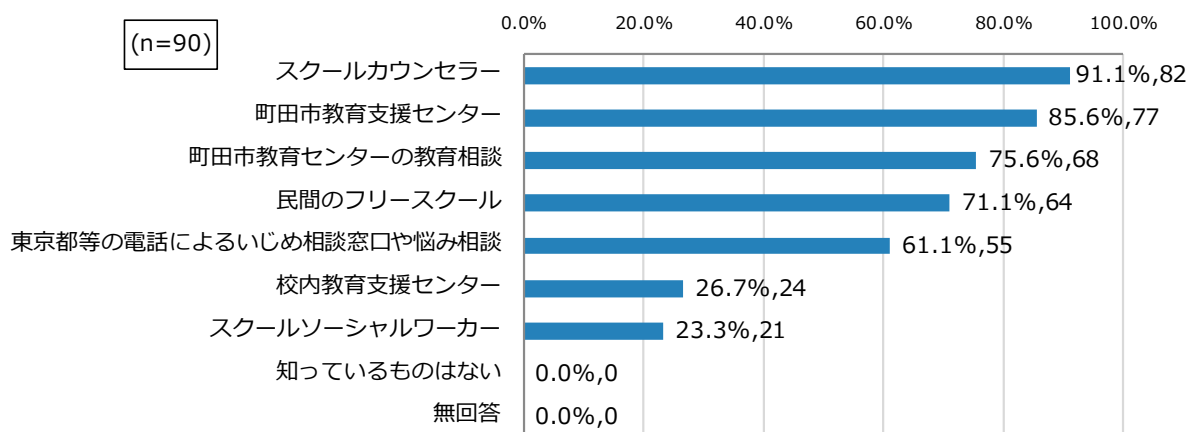


### ③ 知っている支援・サービス

問 8 お子さんの教育上の課題について利用できる、以下の支援やサービスの内、あなたをご存知のものはありますか。  
(あてはまるもの全てに○)

知っている支援・サービスについて、「スクールカウンセラー」(91.1%で 82 人) が最も多く、次いで「町田市教育支援センター」(85.6%で 77 人)、「町田市教育センターの教育相談」(75.6%で 68 人) となっています。

【単純集計】



※「フリースクール調査」においては、「民間のフリースクール」を回答済みとして処理を行った。

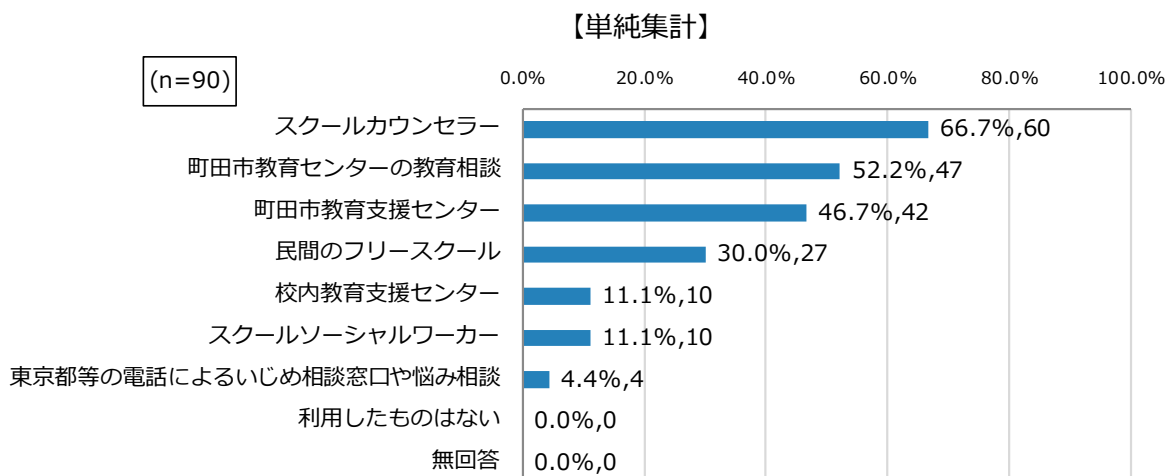
#### ④ 利用したことのある支援・サービス

【問8で「1～7」のうち、1つでも○がついた方に伺います】

問9 問8で答えた支援やサービスのうち、実際に利用したものすべてをお答えください。

(あてはまるもの全てに○)

利用したことのある支援・サービスについて、「スクールカウンセラー」(66.7%で60人)が最も多く、次いで「町田市教育センターの教育相談」(52.2%で47人)、「町田市教育支援センター」(46.7%で42人)となっています



※「フリースクール調査」においては、「民間のフリースクール」を回答済みとして処理を行った。



### 3. 「学びの多様化学校」について

#### ① 「学びの多様化学校」を子どもにすすめたいか

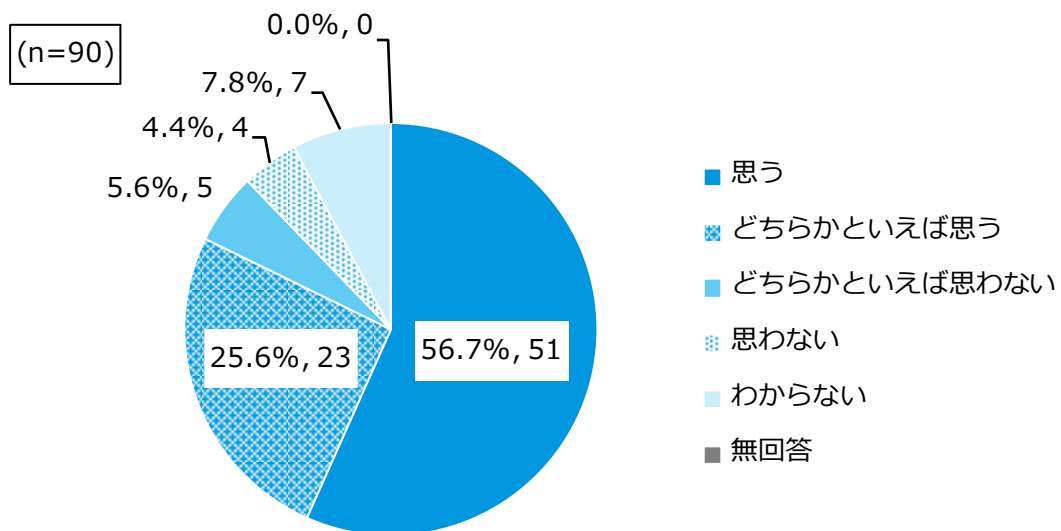
【全ての方にお伺いいたします】

問 10 町田市では、不登校児童・生徒向けに教育課程を編成して教育を実施する「学びの多様化学校」の設置を検討しています。設置された場合、お子さんにすすめたいと思いますか。

(○は1つだけ)

「学びの多様化学校」を子どもにすすめたいかについて、「思う」が 56.7%で 51 人、「どちらかといえば思う」が 25.6%で 23 人、『思う』（「思う」と「どちらかといえば思う」の合計）は 82.3%でした。「どちらかといえば思わない」が 5.6%で 5 人、「思わない」が 4.4%で 4 人、『思わない』（「どちらかといえば思わない」と「思わない」の合計）は 10.0%でした。「わからない」は 7.8%で 7 人となっています。

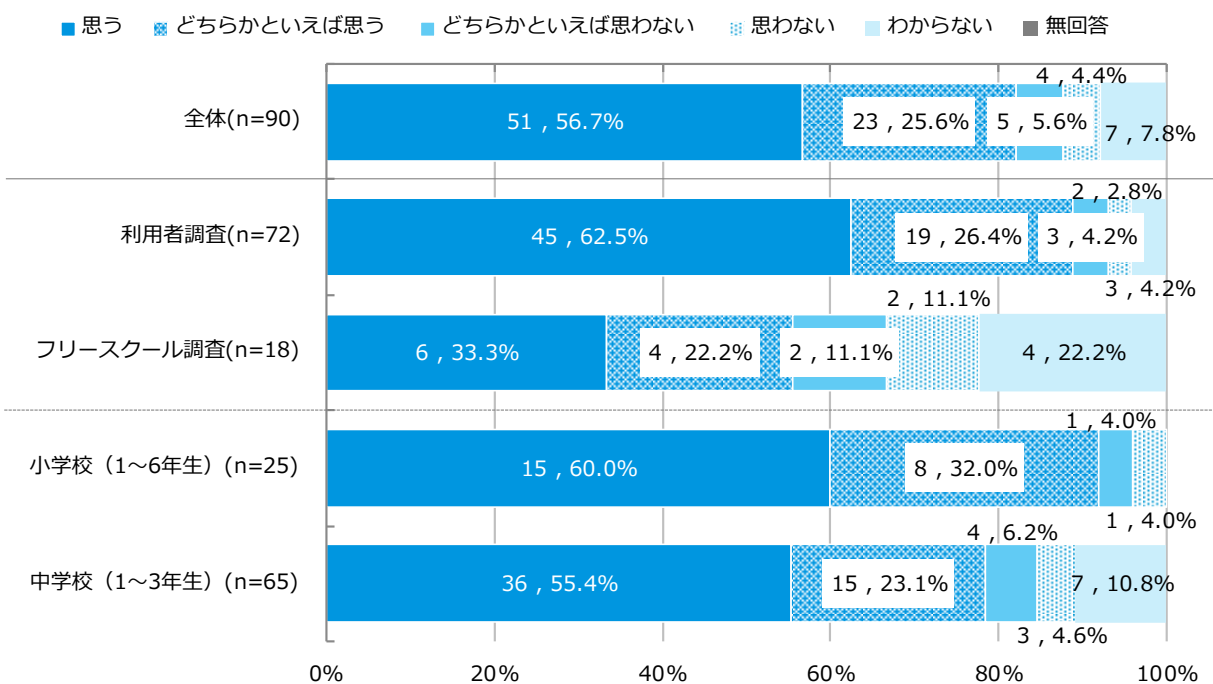
【単純集計】



調査別で見ると、「利用者調査」では『思う』が 88.9%で 64 人、「フリースクール調査」では『思う』は 55.5%で 10 人となっています。

学年別（問 2）で見ると、「小学校（1～6 年生）」では『思う』が 92.0%で 23 人、「中学校（1～3 年生）」では『思う』が 78.5%で 51 人となっています。

【クロス集計】



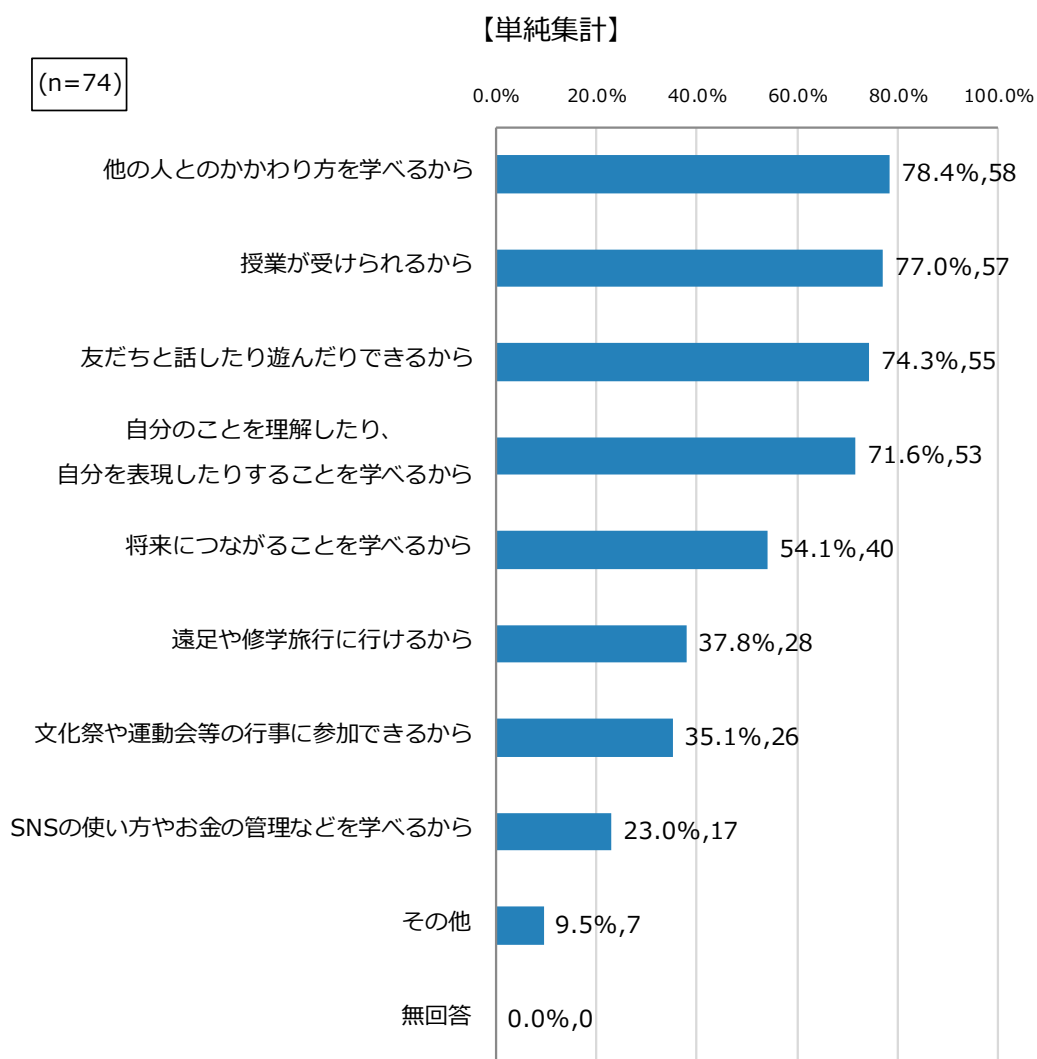
## ② 子どもに「学びの多様化学校」をすすめる理由

【問 10 で「1. 思う, 2. どちらかといえば思う」と回答した方】

問 11 「学びの多様化学校」をすすめたいと思う理由を教えてください。

(あてはまるもの全てに○)

子どもに「学びの多様化学校」をすすめる理由として、「他の人とのかかわり方を学べるから」(78.4%で 58 人) が最も多く、次いで「授業が受けられるから」(77.0%で 57 人)、「友だちと話したり遊んだりできるから」(74.3%で 55 人) となっています。



### ③ 子どもが「学びの多様化学校」に通うために必要なサポート

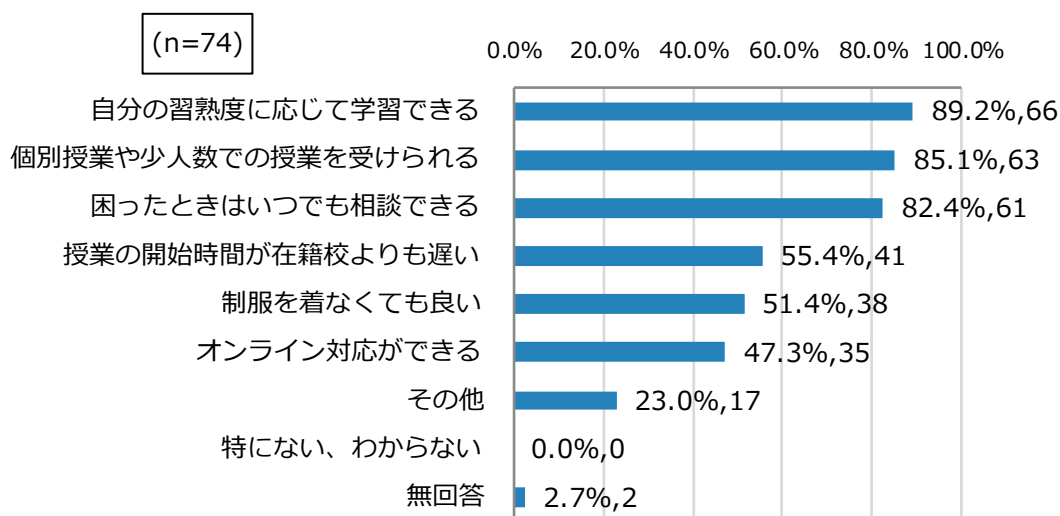
【問 10 で「1. 思う, 2. どちらかといえば思う」と回答した方】

問 12 お子さんが「学びの多様化学校」に通うためには、どのようなサポートがあれば良いと思いますか。  
(あてはまるもの全てに○)

子どもが「学びの多様化学校」に通うために必要なサポートとして、「自分の習熟度に応じて学習できる」(89.2%で 66 人) が最も多く、次いで「個別授業や少人数での授業を受けられる」(85.1%で 63 人)、「困ったときはいつでも相談できる」(82.4%で 61 人) となっています。

「その他」として、「通学するためのアクセス改善・補助」が最も多く意見としてありました。

【単純集計】



【その他について】

自由意見	17 件
通学するためのアクセス改善・補助	7 件
支援者の充実	5 件
柔軟・自由な環境があること	3 件
通学しやすい雰囲気があること	2 件
その他	3 件

※ 1つの意見が複数のカテゴリーに該当することがあり、各カテゴリーの意見の合計と自由意見の件数が一致しない場合があります。

【一部回答を抜粋】

- 通学するためのアクセス改善・補助
  - ・送迎が楽になるように自宅から近くにあるとよい。
  - ・送迎 (スクールバス)。
- 支援者の充実
  - ・一人ひとりに真摯に向き合うこと。
  - ・将来につながるよう大人と子どもへのサポート。
  - ・親以外の味方になってくれる大人の存在。

#### ④ 子どもに「学びの多様化学校」をすすめない理由

【問 10 で「3. どちらかといえば思わない, 4. 思わない」と回答した方】  
問 13 お子さんに「学びの多様化学校」をすすめない理由を教えてください。  
(あてはまるもの全てに○)

子どもに「学びの多様化学校」をすすめない理由として、「子どもに「学びの多様化学校」が  
あっているかわからないから」(5 件) が最も多く、次いで「子どもが行こうとしないから」(3  
件)、「今過ごしている場所に満足しているから」(2 件) となっています。

#### 【単純集計】

回答数	9 件
子どもに「学びの多様化学校」があっているかわからないから	5 件
子どもが行こうとしないから	3 件
今過ごしている場所に満足しているから	2 件
環境を変化させたくないから	0 件
その他	3 件
特になし、わからない	0 件
無回答	0 件

※回答数が少ないため、表形式で結果掲載。回答数が 0 件の選択肢も掲載。

## 4. その他

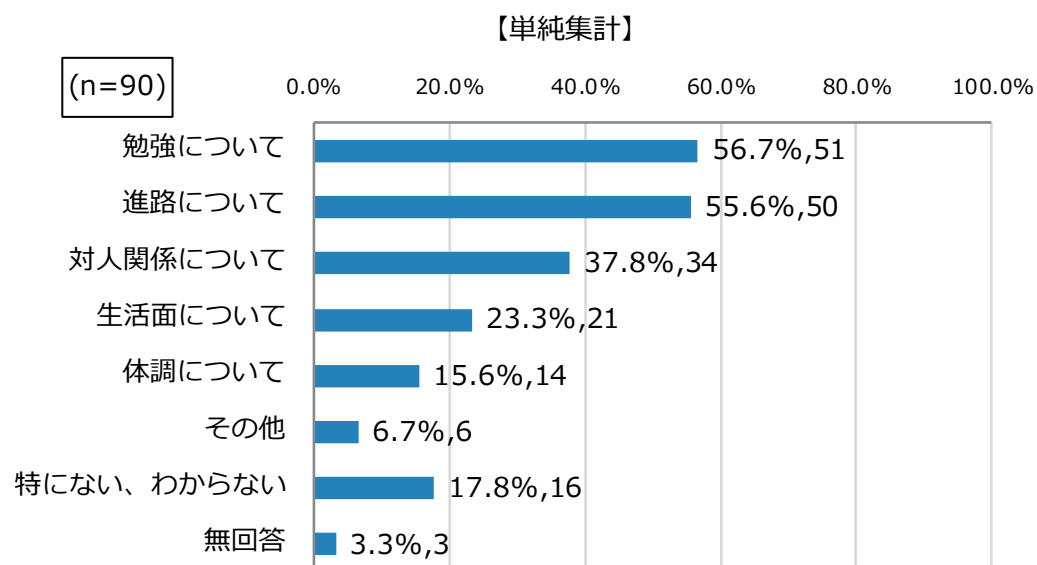
### ① 子どもに関する相談内容

【全ての方にお伺いいたします】

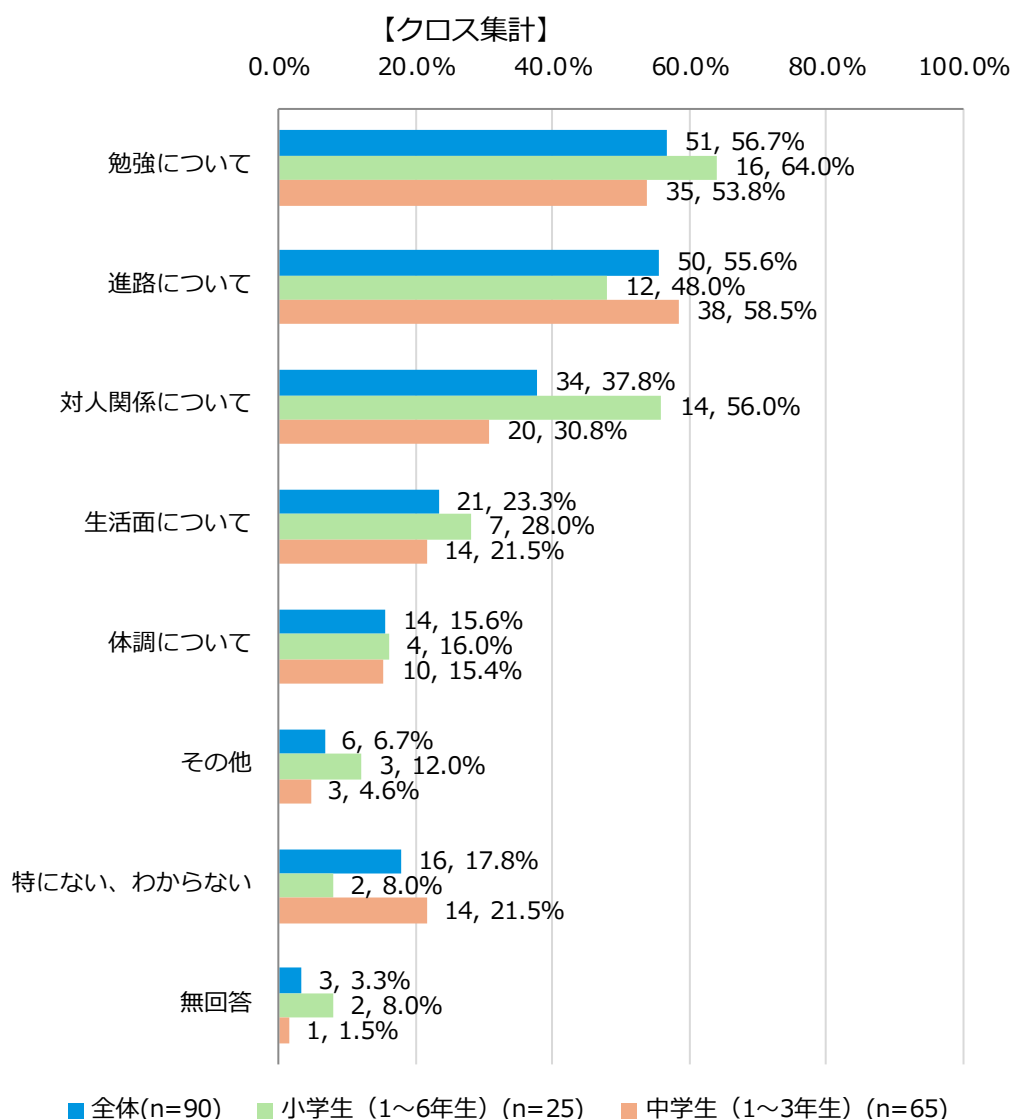
問 14 あなたは今、お子さんのことについて、相談したいことがありますか。

(あてはまるもの全てに○)

子どもに関する相談内容について、「勉強について」(56.7%で51人)が最も多く、次いで「進路について」(55.6%で50人)、「対人関係について」(37.8%で34人)となっています。



学年別（問 2）で見ると、「小学生（1～6 年生）」は「中学生（1～3 年生）」よりも「対人関係について」の割合が高くなっています。



## ② 必要とするサポート

問 15 お子さんへのサポートとして、今後どのようなことがあれば良いと思いますか。良いと思うことを教えてください。(自由記述)

自由意見	66件
学習・生活支援の個別化	17件
子どもの居場所があること	15件
学習・生活支援の多様化	10件
子どもの進路相談	9件
保護者に対する支援	8件
教育支援センターやけやき教室・くすのき教室等の支援拠点の強化	7件
相談できる場	6件
オンラインやICTを活用した学習ができること	6件
精神面や健康面でのフォロー	4件
経済的な支援	4件
通いやすい交通手段・アクセス改善	4件
子どもの特性に応じた対応・支援	3件
カウンセラーや支援員の充実・強化	2件
その他	8件

※ 1つの意見が複数のカテゴリーに該当することがあり、各カテゴリーの意見の合計と自由意見の件数が一致しない場合があります。

### 【一部回答を抜粋】

- 学習・生活支援の個別化
  - ・本人のペースに合わせた個別学習指導。
  - ・学習に取り組むことがなく、宿題をいつも忘れてるので、家庭での指導についてサポートがほしい。
  - ・不登校になることで、学習面は家庭ですべてをまかなう必要があるため、本人が学習したいと思ったタイミングで学習できるようなサポートが必要だと思う。
  - ・本人の理解度に合わせた内容&学習スピードで行われる授業があったらいいと思う。
- 子どもの居場所づくりがあること
  - ・音楽やアニメが好きなので、趣味を共有できる場所。
  - ・安心できる雰囲気作り。
  - ・中学生の不登校の子どもが多く、集団ではない別の過ごし方が出来たらいいかなと思う。
- 学習・生活支援の多様化
  - ・自宅にいても欠席扱いとならない方法があれば活用したい。
  - ・不登校の子が無料で勉強できるフリースペースが増えれば良いと思う。
  - ・勉強はしたいけど、教室でみんな一斉に同じペースで授業を聞く、進める、という形が苦手なようで、自分のペースでじっくり先生と向き合って学びたいのだと思う。学べる環境が、もっともっと選択肢があると良いと思う。

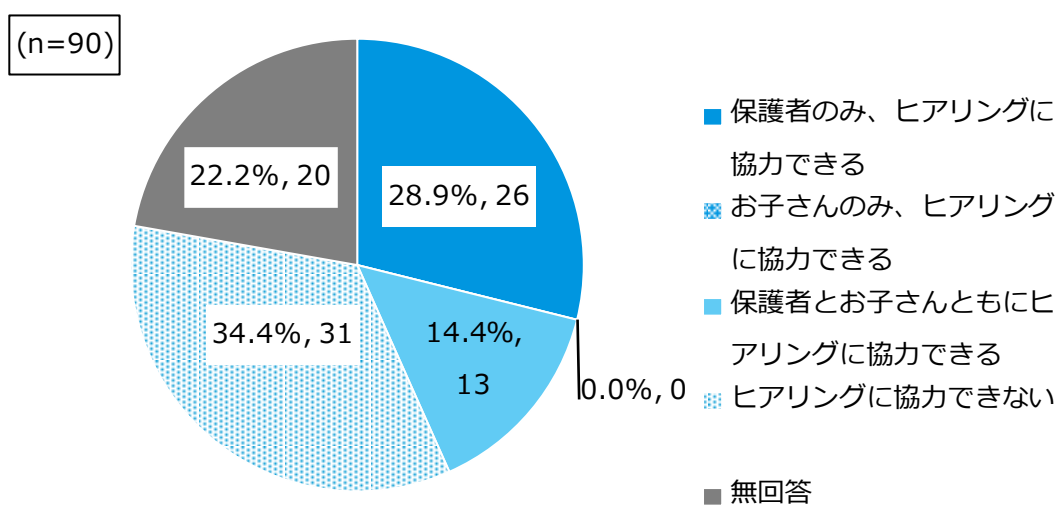


### ③ ヒアリング調査への協力意向

問 16 お答えいただいた内容について、より正確に把握し、今後の施策に活用するため、ヒアリング調査へご協力いただけますか。 (〇は1つだけ)

ヒアリング調査への協力意向について、「保護者のみ、ヒアリングに協力できる」が 28.9%で 26 人、「保護者とお子さんともにヒアリングに協力」が 14.4%で 13 人でした。

【単純集計】





## IV ヒアリング調査の結果

## Ⅳ. ヒアリング調査の結果

### 1. 市の不登校施策の利用理由

#### ① 教育相談

「悩みや状況の共有・整理ができる」「子どもに関するアドバイスが得られる」等の意見がありました。

【一部内容掲載】

- 悩みを共有でき、具体的なアドバイスが得られる。
- 子どもの状況を他者と共有することで、保護者の心理的な負担を軽減できる。
- 現状を整理し、学校との連携をしてくれる。
- 家族以外の大人との関わりを持たせることができる。
- 自己肯定感の向上と学習面の支援の具体的なアドバイスや分析をしてもらえる。

#### ② けやき教室・くすのき教室

けやき教室・くすのき教室は、子どもたちのストレス軽減と社会的自立を促す場として考えられていることがわかりました。

【一部内容掲載】

- 子どものストレスが軽減されている。
- 家に閉じこもらせないこと、外部の人と交流することで人間関係を構築し、社会性を身につけてもらいたい。
- 社会と触れる機会を持ち、生活リズムを整えてもらいたい。
- 外との関わりを持ち、人間関係を学んでもらいたい。
- 自由な学習や少人数での集団活動ができる点がよい。特に若い先生たちとの相性が良く、学習意欲が向上している。また学年を超えた交流ができており、中学生に教えることも楽しみの一つになっている。

#### ③ その他不登校施策

- 保護者の交流会：保護者自身の相談や情報収集のため。
- 校内教育支援センター・スクールカウンセラー：子どもが安心して学校生活を送れるよう心理的サポートを受けることができる。保護者にとっても、子どもの心のケアに関する情報や支援を得ることができる。

## 2. 学びの多様な学校について、通わせたい/通わせたくないと思う理由

---

### ① 通わせたい理由

#### (1) 少人数・柔軟な学習環境を期待しているから

「少人数制で学習や友人とのコミュニケーションの練習ができる環境が魅力的」「自由な時間設定や充実した相談機会がある」「柔軟な時間割と多様なサポート体制が整っている」等の意見がありました。

---

##### 【一部内容掲載】

- 少人数での学習や友だちとのやり取りの練習ができる環境が魅力的だから。
- 小人数での学習環境や、部活動などの自己表現の機会があるから。
- 子どもの負担を軽減するために柔軟な時間割や多様なサポート体制が整っているから。
- 学習計画を自分で立てられる点、成果を自分のペースでチェックできる点、少人数で学べる点はよい。

#### (2) 子どもの進路が広がることや自分に自信を持てることを期待しているから

「自己肯定感の向上を期待」「学習サポートやテスト・成績評価があることで、進路選択の幅が広がる」「子どもの進学したいという希望を叶えることができる」等の意見がありました。

---

##### 【一部内容掲載】

- 自己肯定感が上がり、将来の夢を見つけられる、考えることができる環境を期待。
- 子どもの進学したいという希望を叶えたい。
- 実態に配慮した時間割やサポート体制を持ち、幅広い進路選択が可能だから。

#### (3) 生活リズムが整う等、生活が改善することを期待しているから

「他の子どもや大人と関わり、社会性を育む機会が増えることを期待」「生活リズムを整える場として魅力的」等の意見がありました。

---

##### 【一部内容掲載】

- 子どもが他の子どもや大人と関わることで、社会性を育む機会が増えることを期待。
- 子どもが人と接する機会や生活リズムを整える場として魅力的。
- 登校時間が遅く設定されていることや、自由な時間割が子どもの負担を軽減する。

## ② 通わせたくない・通わせることを薦めるのを躊躇する理由

### (1) 環境の変化に対する不安があるから

「無理に環境を変えることには慎重」「転校の心理的ハードルが高い」「現在の状態で特に通わせる必要がない」等の意見がありました。

#### 【一部内容掲載】

- 転校の心理的なハードルが高い。
- 校内教育支援センターに強い愛着を持っており、そこを離れたくないという気持ちが高い。
- 無理に環境を変えることには慎重。
- 今の状態では通わせなくてもよい。
- 今の居場所を維持しながら、新たな学校での学びが可能であれば、検討の余地がある。
- 所属校にすぐ戻れるか、あるいは状態に応じて学びの多様化学校と所属校を行き来できるか、自由度が高く、子どもに負担をかけない運営が望ましい。
- 週3回のペースが精一杯。増やすのは厳しい。

### (2) 交通や施設面の課題

「通学が不便」「実際に見学してから決めたい」等の意見がありました。

#### 【一部内容掲載】

- 交通の便が悪い。
- 実際の施設を見学し、具体的なサポート体制や環境を確認した上で最終的に判断。
- 本人が安心できる環境であるならば、通わせたい。

## ③ その他の意見

「場所と学習内容への配慮」「安心できる学びの場」等に関する意見がありました。

- 少人数で毎日通えるような環境があればありがたい。
- 学校に通えない子どもでも勉強ができる環境を希望する。
- 発達障がいを持つ子どもに対して、授業を受けるために座る練習や話を聞く練習ができる環境がほしい。
- 通常の教科だけでなく、ポジティブな考え方を学べるカリキュラムがあるとよい。
- スポーツ・運動が組まれ、勉強以外への興味のきっかけができるといい。

## 3. サポートとしてあれば良いと思うこと

---

### ① 学習支援・進路指導

#### (1) 学習支援の充実

---

「子どものペースに合わせた学び直しができること」「近隣で学習支援の場や相談の機会がある」「くすのき教室以外にも学習ができること」等の意見がありました。

---

【一部内容掲載】

- 町田市内により近い場所での相談、学習の場。
- くすのき教室以外にも通える場所や学習できる場。家の近所にあることが望ましい。
- オンライン授業や一人一人にカスタマイズされた学習計画を提供。
- 子どものペースに合わせ、学び直しができる学びの場。
- 学習支援や体験の機会の提供。
- 学習の機会を設ける場ができるかぎり近隣にあることが望ましい。

#### (2) 進路支援の充実

---

「進路相談ができる場所がある」「就職や職業訓練を受ける機会の提供」等の意見がありました。

---

【一部内容掲載】

- 子どもが将来、就職や職業訓練を受ける機会が増えるような支援があれば良い。
- 投資やお金の話、働くことに関する教育。
- 学校以外で試験を受けられる環境の整備や、成績に反映される仕組みが必要。
- 進路選択に関する情報提供や、具体的なアドバイス。
- 進路相談ができる場所の確保。

#### (3) 体験活動や学習機会の多様化

---

「作業療法室や探求型学習の場」「グループワークや協力する機会を通じたソーシャルスキルの学習」等の意見がありました。

---

【一部内容掲載】

- 我慢すること、グループワークで協力することを学ぶことができる機会。
- 放課後等デイサービスの手間や負担を減らすために、定期的なソーシャルスキル学習の機会。
- 作業療法室の設置や探求型学習の場を提供する取り組み。
- クラブ活動や課外活動の機会の充実。
- 運動会や文化祭などイベント等の子どもが楽しめる活動の充実。

## ② 子どもの居場所

### (1) 学校内

「学校内に複数の選択肢として居場所がある」「学校内にフリースクールのような居場所がある」等の意見がありました。

#### 【一部内容掲載】

- 子どもが選択できるよう学校の中に複数の居場所があるとよい。
- 現在の学校では保健室やカウンセリングルームの利用が限られているため、もっと充実した居場所が必要。
- 保健室と教室の間に位置するような場所が必要。
- 学校内にフリースクールのような居場所があるとよい。

### (2) 学校外

「学校以外でも学びの場として機能する居場所」「子どもの特性に応じて安心して過ごせる環境」等の意見がありました。

#### 【一部内容掲載】

- 学校以外でも学べる場所や自由に過ごせる居場所の提供。
- 学校の近くで数拠点、公民館等でも子どもの居場所があるとよい。
- 新しい環境に適応するために支援者が一緒に考える、行動できないときに長い目で見るとよい。
- 子どもの特性に応じ、安心して自分らしく過ごせる環境作りが必要。

## ③ その他

「学校からの情報発信の改善」「保護者同士の情報交換」「健康診断の実施」等の意見がありました。

#### 【一部内容掲載】

- 保護者が定期的に学校のことを知ることができる等、学校から電話連絡などをしてほしい。
- 学校からの積極的な情報発信や伝え方の改善が重要。
- 地域のイベントや町田市の単発イベントの情報がもっと早く届くようにしてほしい。
- 子ども向けの病院やカウンセリング施設を市が紹介してくれるとよい。
- 保護者同士が情報交換できる保護者会の継続。
- 保護者自身が子どもの状況を受け入れるまでの過程で多くの葛藤を抱えていたため、同様の状況にある他の保護者の支援が重要。
- 保護者同士の交流の場や、継続的なサポートを提供できる常勤スタッフの存在が必要。
- スクールカウンセラーの配置や学校からの連絡体制の改善。共働きの家庭が多いため、日中の連絡体制の改善。
- 定期的なヘルスチェックの機会を提供。身長や体重の測定、歯科健診などが必要。



## 4. 町田市に伝えたいこと

---

### ① 情報提供・共有について

「市の情報提供の改善」「学校と家庭間の情報共有」等の意見がありました。

---

#### 【一部内容掲載】

- 不登校児に関する市の情報やサポート方法がいきわたるようにしてほしい。
- 相談施設等に来られない家庭にも情報が渡るようにする工夫も必要。
- 担任の先生とスクールカウンセラーの情報共有が必要。
- 情報が周知され、様々な選択肢を提示されることが重要。
- 不登校になった際の適切な相談先の情報提供が必要。
- 保護者と学校間の連絡手段についても改善が必要。
- 学校での状況を保護者に適切に伝えることが重要。

### ② 子どもの居場所について

「多様な学びの場があること」「子どもの状況に応じた支援体制」等の意見がありました。

---

#### 【一部内容掲載】

- フリースクールのような形で、学校外に複数の教室があると良い。
- 学校に行かないことを堂々と選択できるような社会を望む。
- 学校や行政が連携し、一人一人の子どもの状況に応じた支援体制を整備してほしい。
- 学校以外でも学べる場所や自由に過ごせる居場所が必要。
- 交通の便が良く、気軽かつ誰でも利用できるフリースペースが必要。
- 複数のタイプの学校やフリースクールを設置することで保護者と子どもがそれぞれに合った選択肢を自由に選べる環境の整備を望む。
- 子どもの性格に合わせた学習環境を提供してほしい。
- 学びの多様化学校が子どもたちにとって適切な学びの場の一つとなればよい。

### ③ その他の支援・サービスについて

「経済的負担の軽減」「子どもの進路支援」等の意見がありました。

---

#### 【一部内容掲載】

- 経済的な負担を軽減するためのサポートも必要。交通費や学費の負担軽減策が求められる。
- 学校が早期に子どもの状況をキャッチアップする体制が必要。
- 探求型学習の場や作業療法室の設置も希望。
- 子どもが勉強しないので、進学が難しく、卒業後すぐ働けるような仕事を紹介してほしい。
- 学区にとらわれず、子どもにとって最適な環境を選べる選択肢を提供することが重要。
- 早期からの対策や支援を強化してほしい。具体的には、小学生のうちからの不登校対策の強化や、より多様な選択肢の提供が必要。
- 学校の雰囲気柔らかく、楽しいものにしてほしい。雰囲気が悪い。部屋の壁が白くて面白みがないため、視覚的に楽しい環境にしてほしい。

## 5. ヒアリングに協力しようと思った理由

---

### ① 自分たちの経験の共有と支援に対して貢献したいから

「自身や家庭の経験を他の不登校児や保護者に役立ててもらいたい」という意見がありました。

【一部内容掲載】

- 他の不登校の子どもや保護者のために、自分の経験を共有し、支援の充実に繋げたい。
- 教育センターへの恩返しとして協力し、自身の経験が他の保護者や子どもたちの役に立てばという思いから。
- 町田市の不登校施策や支援体制に対する改善のきっかけになれば。
- 自分の言葉で思っていることを伝える機会が少ないと感じ、伝えたいと思ったため。
- 自分たちの経験が他の家庭にも良い影響を与え、不登校に対する理解やサポートが広がることを期待して。

### ② ヒアリングで情報収集しつつ、意見を伝えなかったから

「ヒアリングを通じて情報を得たかった」「自分自身の意見を伝えなかった」等の意見がありました。

【一部内容掲載】

- 他の不登校の子どもや保護者のために、自分の経験を共有し、支援の充実に繋げたい。
- 他の保護者との交流の中で、学校についての改善点を共有する場があり、その意見を町田市に伝えるため。
- 定期考査の受験希望など、子どもの要望を伝えるため
- 保護者自身も新しい施策に関する情報を得るため。

### ③ その他

- 新しくできる「学びの多様化学校」に関心を持ち、不登校児の保護者として意見を提供することで、実際に役立つ学校を作るための一助となることを期待。
- 子どもの選択肢を広げるため。
- 不登校の問題について、子どもが辛い思いをしているため。

## 6. その他の意見

---

- 進路は誰のものなのかということも皆で考えられるようになるとよい。
- 学校に行かないことへの不安や焦りを感じたが、スクールカウンセラーへの相談を通じて少しずつ解消されていった。

## V 調査結果のまとめ

## V. 調査結果のまとめ

### 1. 平日の昼間の過ごし方等について

#### ① 過ごす場所

- 日中の昼間に過ごす場所は、児童・生徒調査で「自分の家」が 70.0%、保護者調査で「自分の家」が 83.3%となっており、半数以上の人自分の家で過ごしています。
- 日中の昼間に過ごす場所を誰にすすめられたかは、児童・生徒調査で「自分で決めた」が 65.0%、「家族からすすめられた」が 28.3%となっており、自ら決めている人が多いことがわかります。

#### ② 過ごし始めた時期、きっかけ

- 過ごし始めた時期は、保護者調査で「小学校低学年（1・2年生）のころ」が 12.2%、「小学校中学年（3・4年生）のころ」が 20.0%、「小学校高学年（5・6年生）のころ」が 24.4%、「中学校1年生のころ」が 30.0%、「中学校2年生のころ」が 8.9%、「覚えていない」が 1.1%となっており、小学校の間で 56.6%、中学校の間で 38.9%となっています。
- 過ごし始めたきっかけは、保護者調査で「友人関係」が 40.0%、「学習に関すること」が 37.8%、「身体の不調」が 27.8%となっています。また、「特にきっかけはない、わからない」が 15.6%となっています。

#### ③ 日中どのようなことをしているか

- 平日の昼間にどのようなことをしているかは、児童・生徒調査で「テレビを見たりゲームをしている」が 66.7%、「その場にいる人と話したり、一緒に過ごしたりしている」が 58.3%、「勉強をしている」が 50.0%と高くなっています。
- 場所による違いを確認すると、「自分の家」では「テレビを見たりゲームをしている」が 90.5%と最も高く、「勉強をしている」は 31.0%となっています。

## 2. 支援・サービスについて

### ① 支援・サービスの認知度・利用状況

- 支援・サービスの認知度は、保護者調査で「スクールカウンセラー」が 91.1%、「町田市教育支援センター」が 85.6%、「町田市教育センターの教育相談」が 75.6%と高くなっています。
- 支援・サービスの利用状況では、保護者調査で「スクールカウンセラー」が 66.7%、「町田市教育センターの教育相談」が 52.2%、「町田市教育支援センター」が 46.7%と高くなっています。

### ② 支援・サービスに対する要望

- 支援・サービスに対する要望として、ヒアリング調査で「子どものペースに合わせ、学び直しができる学びの場」「子どもが選択できるよう学校の中に複数の居場所があるとよい」「スクールカウンセラーとの相談希望で連絡がつく体制を希望」等の意見がありました。

## 3. 相談の実態について

### ① 相談実績

- 学校以外の場所で過ごし始めたときに相談をしたかは、児童生徒調査で「はい」が 23.3%、保護者調査で「はい」が 88.9%となっています。
- 相談先は、児童・生徒調査で「家族」が 78.6%、「学校の先生」が 71.4%、「スクールカウンセラー」が 50.0%、保護者調査で「学校の先生」が 76.3%、「スクールカウンセラー」が 62.5%、「家族」が 61.3%と高くなっています。

相談先（上位3項目）	児童・生徒調査	保護者調査
家族	78.6%	61.3%
学校の先生	71.4%	76.3%
スクールカウンセラー	50.0%	62.5%

### ② 今、相談したいこと

- 今相談したいことは、児童・生徒調査で「進路について」が 38.3%、「勉強について」が 36.7%、「友だちとの関わり方について」が 20.0%、保護者調査で「勉強について」が 56.7%、「進路について」が 55.6%、「対人関係について」が 37.8%となっています。また、児童・生徒調査では「特にない、わからない」が 45.0%と、「今相談したいことがない、わからない」の割合も高くなっています。
- 児童・生徒調査で「中学校（1～3年生）」（44.7%）は「小学校（4～6年生）」（15.4%）よりも「進路について」の割合が高くなっています。また、保護者調査では「小学校（1～6年生）」（56.0%）は「中学校（1～3年生）」（30.8%）よりも「対人関係について」の割合が高くなっています。

相談したいこと（上位3項目）	児童・生徒調査	保護者調査
進路について	38.3%	55.6%
勉強について	36.7%	56.7%
対人関係（友だちとの関わり方）について	20.0%	37.8%
特にわからない	45.0%	17.8%

## 4. 「学びの多様化学校」について

---

### ① 「学びの多様化学校」への登校希望

- 「学びの多様化学校」に通いたいかは、児童・生徒調査で「はい」が 43.3%、「いいえ」が 26.7%、「わからない」が 28.3%となっています。
- 「学びの多様化学校」を子にすすめたいかは、保護者調査で『思う』（「思う」「どちらかといえば思う」の合計）は 82.3%、『思わない』（「思わない」「どちらかといえば思わない」の合計）が 10.0%、「わからない」が 7.8%となっています。

### ② 「学びの多様化学校」で実施したいこと

- 「学びの多様化学校」でどのようなことがしたいかは、児童生徒調査で「友だちと話したい・遊びたい」が 73.1%、「授業を受けたい」が 69.2%、「将来につながることを学びたい」が 65.4%と高くなっています。
- 「学びの多様化学校」をすすめたいと思う理由は、保護者調査で「他の人とのかかわり方を学べるから」が 78.4%、「授業が受けられるから」が 77.0%、「友だちと話したり遊んだりできるから」が 74.3%と高くなっています。
- ヒアリング調査では、学びの多様化学校に通わせたいと思う理由として、「実態に配慮した時間割やサポート体制を持ち、幅広い進路選択が可能だから」「少人数での学習や友だちとのやり取りの練習ができる環境が魅力的」等の意見がありました。

### ③ 「学びの多様化学校に通う」ために必要なサポート

- 学びの多様化学校に通うためには、どのようなサポートがあれば良いと思うかについて、保護者調査で「自分の習熟度に応じて学習できる」が 89.2%、「個別授業や少人数での授業を受けられる」が 85.1%、「困ったときはいつでも相談できる」が 82.4%と高くなっています。
- ヒアリング調査では、学びの多様化学校に通わせたくないと思う理由として、「転校の心理的なハードルが高い」「地域から離れることへの不安」「交通の便が悪い」等の意見がありました。

## 5. 考察

---

### ① 「学びの多様化学校」への通学希望

- 「学びの多様化学校」へ通いたいと思う児童生徒及び、通うことをすすめたいと考えている保護者を確認することができました（児童生徒調査：問8、保護者調査：問10）。
- 一方で、通いたくないと考える児童生徒、通うことをすすめない保護者も一定数おり、「学びの多様化学校」が学びの場を確保するための一つ的手段であり、今後も児童生徒の学びの場を確保するための検討を進めていく必要があります。
- 特に、通いたくない理由の中には、子どもの今の状態では通うことは難しいといった理由や転校に対する不安の意見もみられることから、個々の状態に合わせた柔軟な取り組みや心理的なサポートも必要になると考えられます。
- 他方、わからないとの回答もみられることから、「学びの多様化学校」や不登校施策について理解を深めてもらうために、適切な情報の提供を継続して行うことが必要です。

### ② 「学びの多様化学校」に求められること

- 子どもたちが「学びの多様化学校」で実施したいことでは「友だちと話したい・遊びたい」、「授業を受けたい」、「遠足や修学旅行に行きたい」等、多様な希望を確認できました（児童生徒調査：問9、ヒアリング調査）。
- その中で、子どもたちは「友だちと話したい・遊びたい」が最も高くなっており、（児童生徒調査：問9）、保護者は「学びの多様化学校」をすすめたいと思う理由として「他の人とのかわり方を学べるから」の割合が最も高いことから（保護者調査：問11）、より対人関係の充実が求められています。
- 日中学校以外で過ごすようになったきっかけでは、「友人関係」が最も高く、次いで「学習に関すること」でした（保護者調査：問5）。大人数での学習やコミュニケーションについては苦手であるという意見が多数あり少数制であること、学習の習熟度に応じて学ぶことができること等の学びの環境を整えることが求められています（保護者調査：問12、ヒアリング調査）。
- 「学びの多様化学校」に通う対象である「中学校（1～3年生）」は、進路について相談したいと思っている割合が高く（児童生徒調査：問7）、保護者も子どもの進路について相談したいと思っているため（保護者調査：問14・ヒアリング調査）、「学びの多様化学校」の特色に沿った「一人ひとりに合った進路相談」の充実が求められています。

### ③ その他

- 本調査では不登校児童生徒及び保護者の貴重な意見を伺うことができました。町田市の不登校児童生徒は1,378人（2023年度）となっており、調査に答えられなかった児童生徒や保護者がいます。引き続き、不登校児童生徒の声を確認していくことが必要です。





## VI 參考資料

## VI. 参考資料

### 1. 児童・生徒調査：調査項目一覧

設問番号	設問形式	設問文
問 1	単一回答	あなたは何年生ですか。
問 2	単一回答	平日の昼間、あなたが学校以外で主に過ごしているところはどこですか。
問 3	複数回答	あなたがそこで過ごすことについて、だれかにすすめられましたか。
問 4	複数回答	あなたは、そこでどのようなことをしていますか。
問 5	単一回答	あなたが、学校以外の場所で過ごし始めたとき、誰かに相談しましたか。
問 6	複数回答	あなたは、悩みや困りごとをだれに相談しましたか。
問 7	複数回答	あなたは今、相談したいことはありますか。
問 8	単一回答	町田市では、今後、不登校の子どもたちのための学校（学びの多様化学校）を作る計画があります。あなたは、そのような学校があれば通いたいと思いますか。
問 9	複数回答	学びの多様化学校でどのようなことがしたいですか。
問 10	自由回答	どのようなことでも良いので、あなたがこれからしてみたいと思うことを教えてください。

## 2. 保護者調査：調査項目一覧

設問番号	設問形式	設問文
問 1	単一回答	このアンケートを回答いただく方について、お子さんとの関係を教えてください。
問 2	単一回答	対象となるお子さんの学年をお答えください。
問 3	複数回答 (3つまで)	お子さんが平日の昼間、よく過ごしているところはどこですか。上位3つまで回答してください。
問 4	単一回答	お子さんが、日中学校以外で過ごすようになった最初の時期を教えてください。
問 5	複数回答	お子さんが、日中学校以外で過ごすようになったきっかけについて、考えられるもの全てをお答えください。
問 6	単一回答	お子さんが学校以外の場所で過ごし始めたとき、誰かに相談しましたか。
問 7	複数回答	相談した方について、あてはまるもの全てをお答えください。
問 8	複数回答	お子さんの教育上の課題について利用できる、以下の支援やサービスの内、あなたをご存知のものはありますか。
問 9	複数回答	問 8 で答えた支援やサービスのうち、実際に利用したものすべてをお答えください。
問 10	単一回答	町田市では、不登校児童・生徒向けに教育課程を編成して教育を実施する「学びの多様化学校」の設置を検討しています。設置された場合、お子さんにすすめたいと思いますか。
問 11	複数回答	「学びの多様化学校」をすすめたいと思う理由を教えてください。
問 12	複数回答	お子さんが「学びの多様化学校」に通うためには、どのようなサポートがあれば良いと思いますか。
問 13	複数回答	お子さんに「学びの多様化学校」をすすめない理由を教えてください。
問 14	複数回答	あなたは今、お子さんのことについて、相談したいことがありますか。
問 15	自由回答	お子さんへのサポートとして、今後どのようなことがあれば良いと思いますか。良いと思うことを教えてください。
問 16	単一回答	お答えいただいた内容について、より正確に把握し、今後の施策に活用するため、ヒアリング調査へご協力いただけますか。

町田市学びの多様化プロジェクトに係る児童生徒状況調査報告書

発行年月 : 2025年2月  
編集発行 : 町田市 学校教育部 教育センター  
〒194-0036  
町田市木曽東3丁目1番3号  
調査受託 : 株式会社日本能率協会総合研究所